

(第3種郵便物認可)

り災証明書発行手続きで、ペルー人女性(左)に身ぶり手ぶりを交えて説明する県行政書士会員=27日、南越前町南条地区公民館



## 県総合防災訓練

# 外国人避難支援に力

## 国際交流協会など初参加

南越前町を主会場に27日行われた本年度の県総合防災訓練では、外国人のサポート態勢強化に力を入れた。参加機関が連携し、ジェスチャーや分かりやすい日本語を使った対応を訓練。言葉の壁を越えて地域で助け合う意識を高めた。(中坪佑香)

【1面に本記】

## 身ぶり交え やさしく説明

今年、新たに県国際交流協会と県行政書士会が加わり計107機関の参加となった。行政書士会は、昨年の熊本地震を受けて1月に県と災害時応援協定を締結。指定避難所の南条地区公民館で、り災証明書の発行訓練を行った。県国際交流協会は外国人避難者の手続きをサポートした。証明書発行の窓口を訪れたペルー人女性に、行政書士会員がスペイン語の説明文を渡し、ジェスチャーを交えてゆっくりと日本語で説明。同協会員が「避難」という言葉は難しいかも、『逃げる』に言い換えてみて」など「やさしい日本語をアドバイスし、通訳に連絡して電話での協力も依頼した。同協会の飯田隼人さんは「外国人に伝わるよう配慮すること、高齢者や日本人にも分かりやすい説明になる」と強調。災害時に外国人が直面する言葉や文化の壁、災害経験の少なさから来る知識不足部分などをまとめたパネルを公民館内に掲示し、「避難するときは近くの外国の方にも声

をかけて」と呼び掛けていた。また、鯖江市にある「コミュニケーションFM」たんなん夢レディオは、主会場近くに臨時放送局を設け、訓練の様子を中継した。県トラック協会や県倉庫協会は昨年に続き協力。県の広域物流拠点に指定されているサンダム福井で水や食料といった救援物資を仕分けしたり、トラックで同町の物資輸送拠点や避難所に運び込んだりした。

### 洪水や地震再現 親子ら怖さ理解

福井で防災フェア

9月1日の「防災の日」を前に、福井市防災フェアが27日、同市のハピリンの屋根付き広場ハピテラスで開かれた。写真。訪れた人たちは洪水や地震を再現する装置で怖さを学んだほか、パネル展示などを通して防災について意識を高めた。2004年の福井豪雨の翌年から市が毎年開いている。今年「見て、触れて、備える」をテーマにした。

初めて登場した装置「水圧ドア」は、水槽内に設置したド

